

---

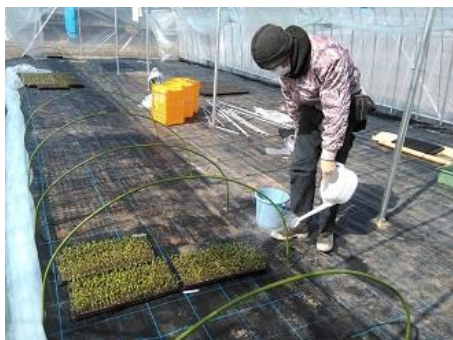
令和2年

# 3月の普及活動状況

---

## ダイジェスト版

～県下10農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

多様な担い手づくり

**岐阜農林■スマート農業** **ドローンを活用し柿樹幹占有率を判定**

農業普及課とJAぎふでは、3月5日に県産業技術センター研究員の協力のもと、ドローンを使って地上約30mの柿園上空から樹園地の写真を撮影した。これは、撮影された画像を元に産業技術センターが作成した樹幹占有率を簡便に算出できる「占有率判定ソフト」を用いて生育状況の判定を行うのが目的である。

高品質な柿生産の為には、樹体への日当たりが重要で、樹幹内部まで日が当たるよう間伐・剪定を行う必要がある。このソフトを使えば、樹園地の状態を速やかに解析、見える化でき、今後の改善策などの情報提供に役立つ。

引き続きドローンを用いて、高品質な柿生産を行う園地の情報を蓄積し、各地域の振興会研修会での指導資料として活用を図る予定である。



【撮影した写真と分析画像】

**東濃農林■営農組合** **新たなライスセンター運営組織が誕生**

多治見市では、北部ライスセンターの老朽化が進み、利用者の意向を確認した結果、令和2年度に色彩選別機の導入を含めた再整備を行うこととなった。その運営組織（法人）の設立に向け、昨年秋から5名の発起人と多治見市、JAとうと、農業経営課、東濃農林事務所等関係機関で検討を重ねてきた。

こうして、令和2年3月10日に、農事組合法人多治見営農の設立総会が南姫公民館で開催された。設立総会では、理事から事業計画や定款等の説明があり、事務局案のとおり承認された。当日は31名の出席があり、委任した19名と併せて50名の組合員でスタートすることとなった。3月中には登記の手続きを行い、正式に設立される。

ライスセンターの再整備と運営組織の設立を機に、米の品質向上と多治見市の水田を維持する仕組みづくりが期待され、農業普及課では、組織活動の支援を継続する。



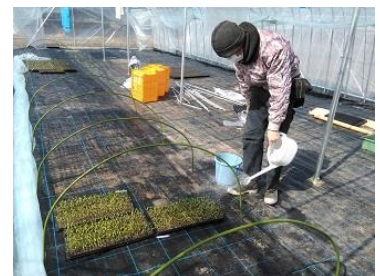
【設立総会の様子】

**下呂農林■新規就農者** **「飛驒トマト研修所in下呂」の卒業生が就農**

下呂市では、「飛驒トマト研修所in下呂」で2年間の研修を修了した卒業生2名が来年度から新たにトマト生産を開始する予定であり、栽培に向けて準備を進めている。

2名の卒業生は、昨年秋からは場準備を開始し、研修先の生産者や先輩研修生の支援を受けて建設したハウスで2月23日に播種を行い、3月5日には仮植の適期を迎えた。

暖冬傾向の中で、苗は概ね順調に生育しており、今後は接木作業、鉢上げ作業を経て4月下旬に定植作業が予定される中、農業普及課では遅霜などの極端な気象変動の発生にも留意し、特に新規就農者をはじめ栽培経験の浅い農業者に対して適正な温度管理や作業スケジュール管理の徹底を中心として、重点的に指導を継続する。



【育苗中の新規就農者】



## 革新支援センター■冬春トマト **スマート農業の推進**

スマート農業技術を活用して、冬春トマトの最適な栽培体系を構築することを目指し、令和2年度からの国庫補助事業の採択を見据えて県や関係機関、生産者らが連携した取り組みを進めている。

3月25日、県関係機関らが、生産施設内でのデータ収集方法や今後の事業運営について協議した。今後も引き続き検討を進めAIを使った栽培管理ナビゲーションを開発して誰もが安定した高収量を得られる栽培体系の構築を目指す。



【普及指導員からの説明】

## 売れるブランドづくり

### 西濃農林■下宮青果部会協議会ごうど下宮GAP組織 **県GAP確認制度の維持審査を初受検**

下宮青果部会協議会ごうど下宮GAP組織（10名）は、3月16～18日、団体事務局（JAにしみの下宮支店）、共同利用施設（神戸集出荷センター）、4農場（品目：小松菜、水菜、ゴーヤ）について、県GAPの維持審査を受けた。同組織は昨年3月に県GAPの確認を受けている。

農場審査では、4名のうち2名が今回初めて農場審査を受けることとなったが、日頃からGAPへの取り組み意識も高く、大きな問題もなく、スムーズな審査対応となった。

農業普及課はJAと協力し、3月4～10日の5日間、農場評価シートに基づいた内部検査を全農場で実施し、改善提案や助言・指導を行った。



【農場審査】

### 揖斐農林■茶 **国際水準GAP認証審査及び維持審査**

池田町（農）美濃いび茶宮地生産組合は、3月2日から4日にかけてJGAPの審査を受けた。令和元年7月に岐阜県GAP確認制度による確認を受けており、国際水準GAP認証へのステップアップを図るもの。本年8月からGAPアドバイザー派遣事業、GAPチャレンジ推進支援事業を活用しながら「管理点と適合基準 茶 2016」に基づいた団体事務局・荒茶加工施設・農場の適合と改善を進めてきた。

審査は、団体事務局、荒茶加工施設及び6つの契約農場で行われ、当日はそれぞれ緊張した面持ちで審査員の質問に受け答えた。今後、不適箇所に対する是正と報告を行い、これが確認されれば認証となる運びである。

揖斐川町（農）桂茶生産組合では、3月4日から5日にかけてASIGAP維持審査が行われており、農業普及課では、リスク検討、内部監査及びマニュアル、手順書、帳票類の確認と見直しを支援している。



【審査の様子】

### 中濃農林■ゆず **かみのほゆず産地戦略会議で「産地方針」を策定**

農業普及課では、新たなブランド創出支援事業を活用し、「かみのほゆず」のブランド力向上に取り組んでいる。

3月3日、かみのほゆず（株）、ゆず生産者代表、JA、関市東商工会、関市、県農業経営課の関係者からなる産地戦略会議を開催した。会議では、生産者を含む関係機関の産地振興に向けた今後の役割を明確化するための「産地方針（産地ビジョン）」について検討し、関係者の合意を得ることができた。

農業普及課では、合意形成の図られた「産地方針」のもと関係機関と連携を図りながら、ゆず産地振興を進めていく。



【会議の様子】

## 郡上農林■水稻 「郡上のお米」の良食味、高品質生産を目指して

郡上産米ブランド化研究会では、郡上産米のブランド化に向けて各種活動、研究を行っており、3月18日に郡上総合庁舎において、令和2年産の食味向上に向けての個別面談を行った。

農業普及課では、研究会員の令和元年産の栽培方法、食味結果等を分析し、令和2年産の栽培計画について各種助言を行った。今回初めての取り組みであったが、市農業アドバイザーやJA担当者を交えて熱心に打ち合わせが行われ、生産者の意欲向上につながった。

今後は、食味向上実証ほを設置し、食味と併せて、収量性、品質面での各種調査を行い、地域に根差した栽培技術の確立に努めていく。



【個別面談の様子】

## 可茂農林■茶 県GAP確認通知を受け、一番茶に向け取組み開始

岐阜県GAP確認に向けて69人の構成員全員で取り組んできた白川町の中野茶生産組合は、岐阜県GAPの現地確認審査及び書類審査が終了し、確認通知書を受け取った。

GAP確認を受けたことで生産意欲がさらに向上し、3月からの一番茶に向けた栽培管理におけるGAPの実践にも熱が入っている。

また、新たにGAPに取り組もうとする生産者も出てくる等、産地としてGAPの取組みが広がり始めた。農林事務所はこれらをさらに支援していく。



【確認通知書を受け取った中野茶生産組合長と理事】

## 恵那農林■花き シクラメンモニター日持ちコンテスト審査を実施！

恵那花き研究会では、毎年シクラメンモニターを募集し、シクラメンを購入していただき、購入2カ月後の状況をアンケートで調査している。また、モニターと併せてシクラメンの日持ち状況を競う、日持ちコンテストも実施している。

3月11日、中津川・恵那市、研究機関、農林事務所が審査員となり、参加者から提供があったシクラメンの写真で日持ち状況を審査した。今年は日持ちコンテストへの応募が38点あり、昨年と比較して応募点数は少なかったが、審査員からは、暖冬で管理しにくい年でありながら、素晴らしいシクラメンが多く応募されていると評価された。審査の結果、日持ちが優れていた参加者に表彰状を授与する予定にしている。

農業普及課では、今後も、シクラメン栽培発祥の地を維持していくために、恵那花き研究会の活動支援を継続し、産地のPRを行っていく。



【応募写真の審査】

## 飛騨農林■ほうれんそう 第2回本部委員会を開催【産地基盤強化プロジェクト】

近年、生産者の高齢化や雇用不足等により、ほうれんそうの栽培面積・出荷量は減少している。このような状況の中、今年度、生産者、関係機関（JA、市、県）が一体となり「飛騨ほうれんそう産地基盤強化プロジェクトチーム」を設置し、労働力不足等への対応策について検討してきた。3月2日（月）には第2回本部委員会を開催し、今年度の取り組みについて報告し、次年度の活動について協議した。地域内での共同調製に関しては、今年度、岐阜市に設置した「全農岐阜パッキングセンター」での運営ノウハウを蓄積し、採算面も考慮したうえで検討することとなった。



【共同調製について協議】

農業普及課では、チーム活動の一環として随時、情報収集・調査を進め、飛騨ほうれんそう産地の基盤強化につながる対応策を提案していく。